

南アフリカ為替週報

2021年10月14日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き> (10月7日～10月13日)

USD/ZAR: 14.7900～15.0900

ZAR/JPY: 7.42～7.66 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、下押しの先行から、反発に転じたものの、値幅は限定的にとどまり、振り返って水準を若干切り上げた。なにかしら南ア固有の相場変動要因はなかったかと探してみたが、これと言って決め手になりそうなものは見当たらなかった。南ア経済指標は、8月小売売上高の減速に失望したが、前後してランドはむしろ堅調気味の推移。南ア電力公社(Eskom)による計画停電(8～14日、夜間、-2,000MW)や南ア航空(SAA)によるストライキ予告(13日)などの報も聞かれたが、ランドが気に掛けた様子は読み取れなかった。ランドの値動きに直接影響したと思われるのは、長期金利動向。9～11日の米連休を挟んで、長期金利は、米、南アで並行して上昇、反落と推移したが、11日にかけては、米長期金利上昇がドル全般の押し上げ要因と読まれたのと同じに、南ア長期金利上昇は南ア国債売り(利回り上昇/価格下落)という読みで、ランド売り要因と読まれ、12日以降はその逆の反応を見た。もっとも、長期金利全般の上昇/下落を引っ張ったのが米国債市場だったのはほぼ間違いないものの、金利上昇/下落の要因については、はっきりと「これ」という材料はなかったように思われた。8日発表された米9月雇用統計は、注目された非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を明確に下回ったにもかかわらず、失業率の低下などを言い訳に、「米連銀による資産購入策縮小(テーパリング)開始時期は(11月で)変わらない」と解釈が一般にされたし、13日に発表された米9月CPIも、さんざっぱら注目され、小幅ながら市場予想を上振れたにもかかわらず、米長期金利はむしろ低下基調をたどった。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/7	6:00	総外貨準備高(USD)	9月	57.06bn	58.07bn	58.41bn
10/11	9:30	企業景況感指数	9月	91.0		
10/12	9:30	鉱業生産(前年比)	8月	+2.0%	+3.1%	+12.3%r
	11:00	製造業生産(前年比)	8月	+1.8%	+0.2%	-4.8%r
10/13	11:00	小売売上高(前年比)	8月	-1.3%	+2.0%	-1.2%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し> (10月14日～10月20日)

USD/ZAR: 14.700～15.000

ZAR/JPY: 7.55～7.75

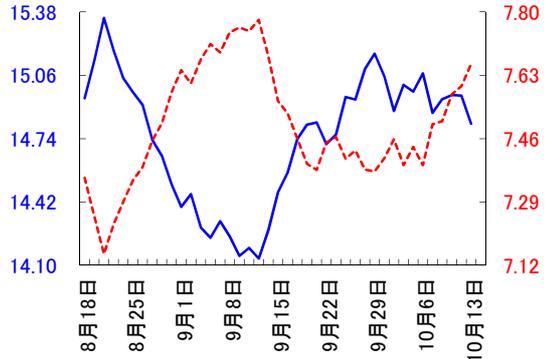
向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感に乏しい膠着を予想。上述の通り、この間のランドの値動きは、(米)長期金利動向の影響を色濃く受けていた。米長期金利の先行きだけを問うなら、足下物価動向に鑑みて、まだまだ上昇余地があるようにも感じられる(=潜在的なドル押し上げ要因?)。しかし、米CPIが前年比+5.4%、米財政赤字がGDP比-15%という水準にありながら、米政策金利が0.00～0.25%で、米10年国債利回りが1.5%台という現状そのものが、そもそも「あり得ない」取り合わせと言える。「あり得ない」現象の先行きを占うのに、もはや、これまでの常識や経験が通じるはずもないであろう。米長期金利の先行きが「読めない」一方、南ア固有の要因に関しては、「誰も見ていない」感が色濃い。南アに対する市場の関心が集まっている局面ならば、上述、計画停電やストライキなどは、相応にランドに影響を与えたはずだが、この間、そうした関心はまるで読み取れなかった。そう言えば、5日に突入したはずの大手労組全国金属労働者組合(NAMSA)ストライキの動向は、この間、一度も耳に(目に)しなかった。月が替われば、11月1日に南ア統一地方選挙、2日に中期予算政策声明(MTBPS)と「注目要因」が相次ぐが、ランドの値動きになにかしら影響するものか、甚だあやしい。地方選はともかく、就任後2ヵ月余りを経て、一向に存在感が感じられないゴドングワナ財務相にとって、初の大舞台となるMTBPSには、せめてもの注目と評価(反応)を期待したい。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/20	8:00	CPI(前年比)	9月			+4.9%

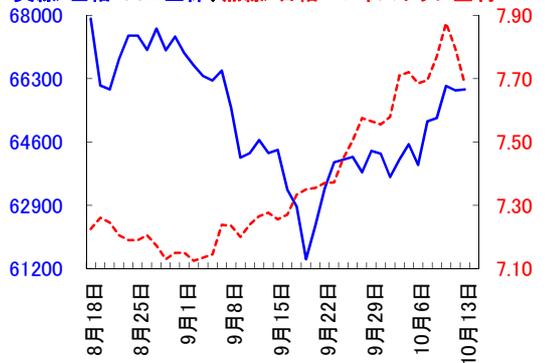
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	10月13日	7.684%
株価指数(JSE全株)	10月13日	66012.78
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	8月	+4.9%
小売売上高(前年比)	8月	-1.3%
製造業生産(前年比)	8月	+1.8%
鉱業生産(前年比)	8月	+2.0%
貿易収支(ZAR)	8月	+42.4bn
金価格(ロンドン17:00)	10月13日	1794.41

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。